

協議題:一人一人に寄り添った多様な支援の在り方

◇子どもの多様性を認める環境づくり

#### 【カリキュラム編成】

- ・不登校の児童生徒の実態にあった魅力的なカリキュラムづくり
- ・これまでの学校とは違う柔軟な学校経営を目指す

#### 【不登校対応】

- ・不登校児童生徒への対処療法ではなく、子どもを否定せず信頼し、学習等の状況や一人一人に応じた適切な声かけや受容な態度で話を聞く
- ・学校内における不登校児童生徒への支援体制の強化
- ・不登校児童生徒の多様化する学びに対応するには、学びの選択肢を増やしていくことが必要
- ・本市のさらなる対策の一つとして「白石きぼう学園」のような学校を設置するのもよい

#### 【学習指導等】

- ・小学校では学習の基礎基本と人としての在り方をしっかりと学べるようにしてほしい。さらに学びたい子には、自ら学べる環境をつくってあげることで自ら学んでいくことができる
- ・「個別最適」を取り入れた「遊ぶ、つくる、学ぶ」を大切にした授業
- ・食育の面から、授業で栽培した野菜果物を地域の方に販売したり、家庭科の調理実習等で活用したりすることで生産から消費の学びに繋がる。
- ・四季折々の自然に触れながら、様々な事柄を学べるようにできればいい
- ・不登校児童生徒が学校に来る目的となるような役割を持たせるのがよいのではないかと。

#### ◇関係機関等との連携

- ・本市不登校児童生徒への対応が素晴らしいので、今後もふれあい教室やroomFとの連携を望む
- ・民間のフリースクールと連携し、不登校に対応すべき
- ・こむこむ館と提携して施設の中で学びたいことを自ら組み立てる
- ・子どもを健やかにまた自立に向けた育ちを支えるための環境づくりのため、無関心や過保護な保護者、急激な環境の変化や家庭内不和など、子どもの力では代えがたい家庭環境の整備に努めることが望まれる



協議「福島市中央地区の教育構想に盛り込みたいこと」①第6回までの意見を踏まえて

〈委員の皆様からの声を基に作成〉  
※要約

再編された中央地区の小学校  
「中央地区だからこそできる魅力ある  
教育の実現」

第7回中央地区教育構想検討会【資料2】

構想図案

第5回検討会より

先導的な学び

- 【子どもを主語とした授業への質的改善】
- ・デジタル×アナログのハイブリッドによる学び
- ・挑戦や失敗を大切に、自ら課題の解決に挑戦する学習の実践
- 【地域コミュニティの拠点となる学校】
- ・研究機関や企業等と連携しながら学べる学校
- ・子どもたちと地域住民等がシェアする学び舎
- ・街中みんなが先生の小学校

◇委員から出た言葉  
「個別最適な学び」「多様なカリキュラムづくり」

○ 先進的な取組を聞く  
【鎌倉市教育委員会教育長】:学習者中心の学びへの転換  
【白石きぼう学園校長】:自分のペースで学べる学校

第6回検討会より

一人一人に寄り添った多様な支援の在り方

- 【多様なカリキュラム編成】
- ・自分に合った学びが見つけれられる学校
- ・自分らしく成長することができる学校
- 【不登校対応】
- ・山や川など福島市の環境を生かし、様々な人と関わりながら学ぶことができる学校

◇委員から出た言葉  
「授業の質的改善」「地域の学校教育への参画」

中央地区の教育の創造

福島一小学校・福島四小学校・清明小学校の文化の継承と発展  
～3校の伝統・DNAを引き継ぎ新たな文化を創造する小学校～

学区と地域コミュニティの再編

【中央地区の小学校の現状】

- ◆少子化による中央地区の児童数が減少している。
- ◆3校の校舎が築年数60年を経過し老朽化が進んでいる。

【福島市の喫緊の課題】

- ◆小学生・中学生の学力の向上
- ◆不登校児童生徒の増加